



### 目次

#### \* TOPICS

- \* ユビキタスリサーチ支援
- \* ヒューマンリソース
- \* 次世代育成のための調査・企画

少子化・高齢化社会の到来と価値観の多様化の時代となり、女性が働き続けるという要請が高まってきています。これに対して行政的な措置としては、労働基準法の改定、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、次世代育成支援対策推進法などが施行され一定の成果は収めつつあります。しかしながら、女性研究者が出産・育児などのライフイベントにより、研究活動を中断したり、場合によっては断念したりせざるを得ないことがあります。このような女性研究者を支援する試み

も科学技術振興機構あるいは日本学術振興会などで行われ始めました。文部科学省ではこの問題に対して平成18年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業として提案の公募を行いました。36の大学・研究機関などから提案があり、そのうち10の機関（結果的にはすべて大学となった）が選抜されました。本学からは「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」を提案しこれが採択されました。この選抜の過程では、平成18年3月18日に当時の男女共同参画担当の猪口邦子大臣を来賓として迎えて開催されたシンポジウム「女性と科学」の実績なども、非常に高く評価されたと考えています。

本プロジェクトは、「出産・育児と研究活動の両立支援」と「女性研究者の活躍の場の拡大」目的としたもので、その中核となる取り組みは、以下の3本柱です。

- ① 育児中の研究者に研究助手をつけ、ネットを利用した実験装置の遠隔操作や画像伝送など、さまざまな支援を行い、研究活動の低下を最小限にすること
- ② 電子情報（e-ポートフォリオ）への女性研究者のキャリア蓄積を行うとともに求職情報のデータベース化を活用したジョブマッチング支援
- ③ 中高生対象の親子理科教室や研究室の公開など、次世代研究者への教育・育成を含む企画・調査

本プロジェクトは、平成18年7月からスタートしました。代表責任者は後藤祥子学長、プロジェクトリーダーは小館香椎子理学部教授です。本プロジェクトの事務局として「女性研究者マルチキャリアパス支援」プロジェクト推進室を設置し、推進室長に遠山嘉一客員教授が就任しました。3本柱に対応して、1)ユビキタスリサーチ支援部門、2)ヒューマンリソース部門、3)次世代育成企画・調査部門を設け、活動を開始しました。この活動を広く周知するためにホームページも新設しました。ニュースレターではそれぞれの活動状況を報告いたします。



総括責任者  
学長・理事長  
後藤祥子



プロジェクトリーダー  
理学部教授  
小館香椎子



プロジェクト推進室長  
理学研究科客員教授  
遠山嘉一

### 女性研究者・技術者の増加



ご質問などありましたら  
気軽に推進室までお越し  
下さい。

〔場所：目白キャンパス〕  
新泉山館2階



## ～第2回シンポジウム 2006.11.25～

成瀬記念講堂にて、「女性と科学」第2回シンポジウムが開催され、約180名の学内外の研究者、学生が参加しました。

特別講演としては、富士通研究所の前常務取締役の持田侑宏氏から「次世代を担う女性研究者・技術者」と題して、今後企業の研究者を目指す若い女性たちへのメッセージが語られました。

第1回シンポジウムでは、大学、研究機関に働く先輩方の話を中心にプログラムを組みましたが、今回は企業トップクラスの方のメッセージと、主として企業で働く卒業生の経験談をご披露頂きました。

また、講演終了後、講演者との交流会を開催し、講演された卒業生より今後のキャリアパスについてなど様々な意見を伺うことができました。

シンポジウムの開催とともに、生涯学習センターのご協力のもと、臨時保育を開催し、育児中の参加者も安心してシンポジウムに参加できるようにしました。



講演される持田氏



交流会の様子

第2回シンポジウム開催時に参加者にアンケート調査を行いました。卒業後の進路や仕事と育児の両立の体験談は、参加者にとって非常に興味深い内容になりました。

### 講演内容に関するご感想・ご意見

- ・卒業生の裏体験が聞いてよかった
- ・ロールモデルの参考になった
- ・女性が社会で働く大変さを痛感した
- ・仕事と育児の両立ができていることに感心した
- ・パネルディスカッション形式を取り入れて欲しい
- ・自分を確立出来る材料を学生時代に得ることが大事だと思った

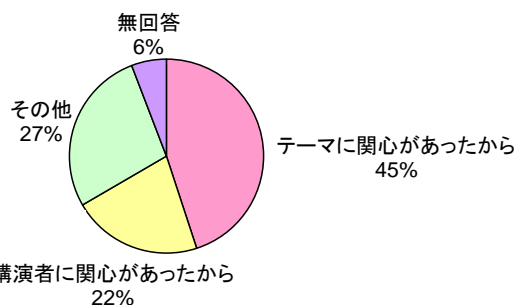
### 今後取り上げてもらいたいテーマは何ですか？

- ・女性だけではなく男性（女性研究者の家族や本件に理解のある）の話を聞きたい
- ・出産、育児の話が聞きたい
- ・仕事や会社の話をもっと詳しく聞きたい
- ・出産・育児と仕事を両立するための企業の取り組みについて知りたい
- ・子供の年齢別の子育てロールモデルの話が聞きたい
- ・出産・育児と仕事を両立するための企業プロジェクトについて聞きたい

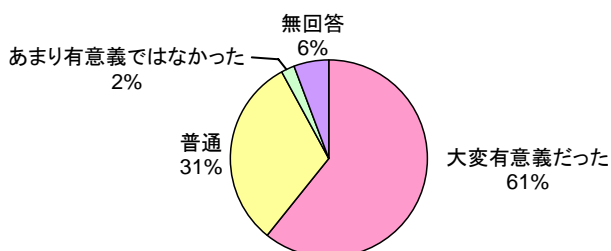
## プログラム

- (敬称略)
- **開会の辞** 総合司会 遠山 嘉一  
プロジェクト推進室長、日本女子大学客員教授 遠山 嘉一
  - **主催者挨拶** プロジェクト総括責任者、日本女子大学学長 後藤 祥子
  - **プロジェクトの進捗状況** プロジェクトリーダー  
日本女子大学 理学部教授、日本学術会議会員 小館香椎子
  - **特別講演**  
「次世代を担う女性研究者・技術者へ」  
富士通研究所 前常務取締役 持田 侑宏  
司会 日本女子大学 小川 賀代、永田 典子
  - **卒業生からのメッセージ**  
「大学での勉強、社会での勉強」  
富士通オフィス機器株式会社 神奈川支店担当部長兼浜営業所長 久保田聡美  
「楽しいが一番！」  
日本女子大学 システム企画課 河村 尚美
  - 「社会に出て見える母校の良さ」  
株式会社東芝 研究開発センター モバイル通信ラボラトリー 山田亜希子
  - 「子供と歩む学びの日々」  
キャノン株式会社 解析技術研究所 物理解析第一研究室 杉山 麻子
  - 「多様な女性たちに励まされて：日本女子大での研究生活」  
日本女子大学 物質生物科学科 学術研究員 藤原 宏子
  - 「分析の研究と子育てと私」  
株式会社ブリヂストン 中央研究所 堀川 春奈  
研究第一部 分析・材料基盤技術研究ユニット
  - 「仕事も子育ても楽しい毎日ー通勤徒歩 10 分の快適生活ー」  
味の素株式会社 医薬カンパニー医療研究所 創薬開発研究部 福田 弓子
  - 「先輩ママのいない職場で：たった一人の子持ち女性技術職」  
三興コンピュータソフトウェア株式会社リサーチ&ディベロップメント 神八千香子  
日本女子大学副学長 蛭川 芳子
  - **閉会の辞**
- ◇卒業生との交流会 (16:30～)

### シンポジウム参加の動機



### シンポジウムの感想



# ユビキタスリサーチ支援部門

## ～U-リサーチャーと研究助手の採用～

「いつでもどこにいても研究活動を継続する」という新しい概念のもと、その支援を受ける育児中の対象者のことを「U-リサーチャー」と呼びます。

事業開始後、すぐにU-リサーチャーの公募をかけ、平成18年8月からU-リサーチャー3名に対する支援を開始しました。平成19年2月1日の時点で、U-リサーチャーは8名おり、今年度中にもう1名が加わる予定です。U-リサーチャーを支援するための要員として「研究助手」の公募も行いました。現在、各U-リサーチャーには、研究助手を配置し、研究活動を円滑に進めるための支援が行われています。



U-リサーチャーの育児と研究の両立

### U-リサーチャー・研究助手募集中！

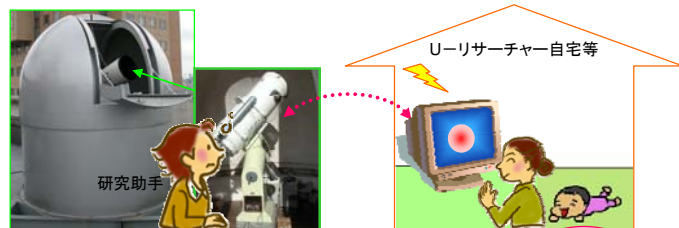
U-リサーチャー・研究助手ともに、随時募集中です。応募要領など詳細は、ホームページをご覧ください。  
<http://momi.jwu.ac.jp/~mcpweb/recruit/index.html>

## ～遠隔操作システムの構築～

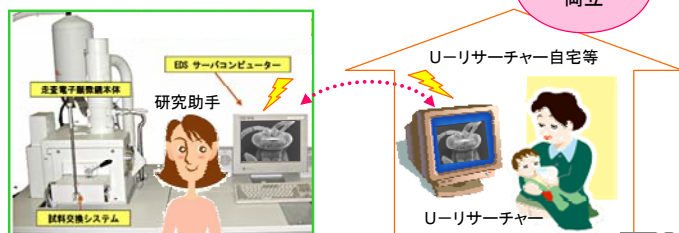
自宅にいながらにして研究活動を継続するために、実験機器の遠隔操作システムやテレビ会議システムを導入しました。遠隔操作システムとしては、電子顕微鏡でのデジタルデータ取得・転送のためのモジュールを導入し、利用が開始されています。望遠鏡のリモートコントロール装置は試作品の作成が完成し、平成18年度中に実用化の予定です。テレビ会議システムは、研究室ゼミなどにおいて利用が始まっています。



### 天体望遠鏡遠隔操作システム



### 電子顕微鏡遠隔操作システム



## ～U-リサーチャーの紹介～

**Fさん**：理学部学術研究員（女性）

子どもの年齢：0才

研究内容：鳥類の音声記憶についての神経行動学的研究

出産後の「怒濤」のような1年も無事に過ぎました。この間、二人の研究助手に私の研究プロジェクトに参加してもらって幸運に恵まれました。私は在宅で研究を続けることになりましたが、これには想像以上に強い意志が必要であることがわかりました。しかし、「研究室では仲間ががんばっている」ことによって、大変励まされました。研究助手のお二人も、まさに「昔とった杵柄」で、それぞれが学生時代に培った研究手法を見事に生かしてくれました。

4月から子どもを保育園に預けて研究室に通うことになりました。1歳を過ぎると、また、保育園に通うと、子どもが病気にかかることが多いと聞きます。研究室のセミナーや研究の打ち合わせの時に子どもが病気になったら（つまり保育園では預かってもらえないわけですが）どうしよう!!これが大きな気がかりです。しかし、テレビ会議システムがあることによってこのような心配は解決されそうです。

**Nさん**：理学部助教授（女性）

子どもの年齢：8才

研究内容：細胞内小器官の分化に関わる超微構造学的研究

平成19年2月末に導入されたばかりですが、テレビ会議システムは、当初想像していた以上に大変有効に活用させていただいています。学生さんは、ちょっとしたことを聞きたくなくても、わざわざ電話をかけて、と思うと躊躇してしまうようですが、研究室内で「せんせーい」と声をあげるだけで通じるテレビ会議なら、遠慮無く話しかけることができるようです。音声のタイムラグも思っていたほどでなく、また画像の解像力も高いので、カメラに手書きのノートをむけられても、十分に読むことができます。電子顕微鏡のシステムも、大変ありがたく使わせていただいています。高速インターネットの構築が、テレビ会議システムの導入と同時期だったので、本格的な活用はこれからになりそうですが、リアルタイムで画像が確認できるようになるため、本当に遠隔操作しているような状況になるのではないかと、大変期待しています。

**Sさん**：理学部学術研究員（女性）

子どもの年齢：1才

研究内容：デジタルホログラフィック画像処理に関する研究

日本女子大学で卒業後、光学メーカーで4年間働いていました。平成17年の6月より育児休暇に入りましたが、平成18年の2月に主人が急な転勤となりました。子供が父親と暮らすことの大切さと、単身赴任で一人で子育てしながら働くことは難しいと考え、残念ながら退職しました。主人の転勤先で新しい仕事を探そうとも思いましたが、子供がいての再就職は難しいという現実と直面していました。今回採用していただき、再び研究に戻ることにうれしきでいっぱいです。また子供に母親が研究をしている姿を見せられることは、子供が成長する上でも大きなプラスになると信じています。

主人も応援してくれており、子育てによりキャリアを中断してしまった人の復帰ロールモデルとなれるようがんばっていきたくと思っています。導入して頂いたテレビ会議システムで研究打ち合わせにも参加させて頂いております。このような機会を与您えいただき感謝しております。

# ヒューマンリソース部門

## ～eポートフォリオによるキャリア構築～

就職の受け皿となる企業（大手電気メーカー）の採用に携わる研究者と人事担当者から、学部卒・修士修了者と博士号取得者を採用するにあたり、注目する項目についてヒヤリングを行いました。また、名古屋大学キャリアパス支援室、人材開発会社へもヒヤリングを行い、これらのヒヤリング結果より得られたジョブマッチングに必要な項目をWeb上で入力できるeポートフォリオシステムの構築に着手しています。

このシステムの実現により、研究助手や学生が自身の可能性を見出し、ステップアップを目指すことを促進します。



日刊工業新聞に掲載されました。  
(2006.10.31)



## ～第1回目サイエンスカフェ 2007.3.13～

話題提供者として田畑友啓先生をお招きし、「理系研究者・技術者の起業・独立を考える」と題したサイエンスカフェを開催しました。様々な立場から、理系のマルチキャリアパスの1つとしての起業・独立について活発な議論がなされました。

日時：2007年3月13日 18:00～

場所：日本女子大学新泉山館

話題：理系研究者・技術者の起業・独立を考える

話題提供者：東京大学 産学連携本部

特任助教授 田畑友啓先生

参加者：本学教員・学生、他大学の教員、企業他 約20人



第1回サイエンスカフェの会場の様子



# 次世代育成企画・調査部門

## ～サマースクール 2006.8.2-11～

8月2日～11日の2週間に渡って中学・高校生向けに理学部サマースクールを開催し、延べ200人以上の内外の中高生が参加して、大学の専門的で興味深いテーマ（数学、物理、化学、生物の合計15講座）や最先端の科学を実体験してもらいました。

## ～インターネット子供教室 2006.10から計5回～

子供メディアフォーラム、本学生涯学習センターと連携し、「インターネット子供教室」を開催しました。インターネットの安全な使い方、著作権、ホームページの使い方などを本学物理情報演習室のコンピュータ施設を用いて大学院生が小学生の受講者を指導し、交流を深めました。

## ～中学生対象の科学教室 2007.2.17～

電子情報通信学会との主催で、科学教室「魅力いっぱいの光の世界を体験しよう！」を行い、附属中学校を含む近隣の中学生29名とその父母多数が参加しました。今井元教授・小館香椎子教授・小川賀代講師が講師を務め、助手・大学院生・学部生の指導のもと、光通信の原理について説明を受け光ファイバを使った工作、さらに光スペクトルの話を聞き、CDを用いた分光器を作製した後、3色のLD光源で色合成の実験を行いました。参加した中学生は熱心に先生の話の話を聞き、目を輝かせながら実験に取り組んでいました。半数の父母も実験工作に参加するなど、活気のある科学教室でした。



(左) 分光器づくりの様子  
(右) 修了証書を手にとり記念撮影

発行者 : 日本女子大学「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」プロジェクト推進室  
発行責任者 : 小館香椎子, 遠山嘉一  
住所 : 〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学新泉山館2階  
TEL&FAX : 03-5981-4154  
E-mail : [mcp@fc.jwu.ac.jp](mailto:mcp@fc.jwu.ac.jp)  
URL : <http://momi.jwu.ac.jp/~mcpweb/index.html>

